



香美森林組合の間伐材搬出現場にて

1 平成24年度「福岡県フォレストフレンズ」交流事業を開催して

福岡県フォレストフレンズ事業は、県内林業後継者育成のため、県外の優れた林業技術と、その地域の交流を通じて、新しい技術や知識を習得し、福岡県林業の振興を図る目的で、本会が実施しています。

平成24年度は、高知県林業の視察研修及び林業研究グループとの交流を行いました。

(1) 期 日 平成24年11月7日(水)～11月9日(金)までの2泊3日

(2) 参加者数 平川光臣 団長 他17名

(3) 研修内容

- ①(株)とされいほくの林産業
- ②土佐町林業研究会との交流会
- ③筒井順一郎氏の山林経営
- ④NPO土佐の森救援隊
- ⑤香美森林組合の林産業

(4)参加者の感想文(抜粋、順不同、敬称略)

各研修先の概要の次に、参加者に研修場所ごとに「研修で学んだこと」、「全体を通じて感じたこと」、「今後研修成果をどのように活かしたいか」を感想文にいただきました。

(5) 研修内容

① 株式会社とされいほく（長岡郡大豊町）

(ア) 概要

- ・高知県、大豊町ほか3町1村、県森連、6森林組合、2民間会社が出資している会社で、社員数 事務職4名、現場技術職17名 計21名（平成24年度現在 現場技術職平均年齢31歳）の職員がいる。
- ・弊社は、豊かな森林の創造、大型架線集材システムの推進、地域社会への貢献を主においている。
- ・林業は激しい状況が続いているが、間伐手遅れ林分が多く、持続可能な林業にするため、平成13年度から間伐中心に行っている。
- ・H型架線集材は、高知県のみ（近年は、三重県も）で、急傾斜林地で採用している。
H型架線集材とは、索張りを上から見るとアルファベットの「H」の形になっていることから「H型架線」と称されている。
 - 〔長所〕
 - ・線下作業、内角作業が回避できる。
 - ・単位面積あたりの集材面積の増が可能。
 - ・かかり木を架線で処理できる。
 - ・線下等の架線支障木が少ない。
 - 〔短所〕
 - ・架設箇所が地形により限定される。
 - ・架設に高度な技術が必要。
 - ・大型集材が必要。
 - ・事業地の大口化が必要。
- ・とされいほくは、地形を考慮し、急傾斜林地には架線系システム、緩傾斜地林地には車両系システム、緩・急傾斜混在林地には架線系・車両系組合せシステムとする等、使い分けている。

(イ) とされいほくの林産業で学んだこと

平川 光臣

（株）とされいほくは、平成3年、3町1村が95%以上を出資し、設立された第三セクターです。林業に適性と忍耐力のある人を採用し、技術力を高め、給料は公務員並みとし、間伐事業地は、大団地集約化で、1団地



（株）とされいほくのH型架線による集材

100ha、できれば300～500haに集約、山元には現在1ha25万円を還元、10年後は40万～60万円還元の目標があるとのこと。

集中豪雨が多くなり、土質が崩れやすいところ、高知県のように急傾斜林地の多いところは、H型架線集材が適した方法だということです。

（株）とされいほくの事業のやり方は、他の林業事業体の模範だそうです。確かな企業理念と高い目標をかけた、それに向かって努力されていることがわかり、大いに参考になりました。

また、自分たちの経験と今回の視察研修で学んだ事を合わせて、地域の実情にあった林業振興の道を探したい。

今回の視察を受けていただいた事業体、高知県の職員の方に心からお礼申し上げます。

浦屋 奈美子

企業理念をしっかり受け止め、情熱をもって仕事に取り組んでおられ、笑顔がとても印象的でした。それも大きな受け皿が整備されている事が、活力源なのかと思いました。定着率も上がり、若年層も増加との事、魅力ある職場になるのかな、大きな森林県なれば出来る事なのか、福岡県では、なりたない事業なのかと考えさせられました。



色々な違いの場所を案内頂きましたが、立場や場所の違いを上手に取り入れ頑張っておられる事が、良くわかりました。 今後は、出来る事から階段を昇っていきたいと思っています。地域のおばさん達に今回の事を話したら、すぐにNHKのズームアップ現代で森林の事が放送され、良く理解出来たと電話があり、何でも話して森林への理解が増えればうれしいと思います。

中村 太一

山主へ還元して、公務員並の給料を目指している所など、大変感銘を受けました。またH型架線集材は今、組合でしている線上での集材ではなく面で集材できる事で、引き出す事が難しい所も真上に引き出せるので、素晴らしいと思いました。 また、H型架線集材で大規模にしている「とされいほく」、自分の山で生活している筒井さん、自伐林家になっていく為の入口にある「土佐の森救援隊」は、対極にあると感じました。今回の研修で学んだことは、一つのやり方として組合で活かしていけたらと思います。

② 土佐町林業研究会との意見交換・交流会

(ア) 概 要

土佐町林業研究会は、昭和57年に発足し、現在会員は32名で、会員の職業は、素材生産業、シイタケ生産、森林組合職員、大工、畜産業、公務員など、兼業家が多い。

研究会の活動は、視察研修、学習会、優良品種の苗木育成、香川県の設計士や工務店等との交流、湖畔マラソン、産業文化祭等を実施している。

(イ) 土佐町林研との交流で学んだこと

吉村 正春

事前の資料では、地域での産直住宅に取り組んでいるということで、楽しみにしていたが、現在はいろいろ難しい点もあって休止中だと知って少しがっかり。しかし、交流会の席で、個々のメンバーと話をすると、各々が自立的に活動していて、それはそれでとても面白く、成熟した林研の一つの有様だなと感じた。

今回は、架線系がメインテーマで、ともすると、作業道車輛系に傾斜しがちな現状に、とても新鮮な一石を投じてくれた研修だったと思う。個人的には筒井氏の、まるで桃源郷のような、生活世界が印象的で強烈だった。筒井氏のように、林業との魅力を多面的に発信していき、同時に自身も、もっと林的生活を楽しんでいきたい。

いろいろ、お疲れさまでした。来年も、ぜひ、研修を続けてください。



土佐町林業研究会との意見交換会

安倍 廣重

土佐町林研で学んだ事は、湖畔マラソンで賞品に間伐材を提供していたこと、山彦カーニバルのひっかけで、パーベキューをし、会員相互の親睦を図っていること等です。高知県では県林研はないということでした。今回は製材工場の視察がなくなり、搬出現場などが多く見られてよかったと思う。H型集材などは話では聞いていましたが、見たのは初めてでした。

栗原 直宏

土佐町林業研究会は、昭和57年に発足して以来、いろんな職業の会員達と、長年にわたり学習会や研修を続けてきた。測量の習得や優良品種の苗木育成等、自分たちで出来ることは自分たちでやる。その気持ちが60代のメンバーが多い中、お互いの信頼や山を愛する気持ちが強く感じられた。

厳しい林業の状況の中に、早くから林業機械等を取り入れ集約化し、そして実践し、その中で若者を雇用し、計画的で無駄がない取り組みに驚いた。

これからも豊かな森づくり、そしてきれいな溢れる水を守ってほしい。高知県林業の研修で、それぞれ大、中、小規模といった林業を視察できた。それぞれの良い所を研究し、山林所有者、地域に合った林業のありかたを進めていきたい。

③ 筒井 順一郎氏（土佐町東石原）

(ア) 概要

土佐町林業研究会の会員であり、所有山林の木に対する思い入れが強く、子供を育てる感覚で木を育てておられ、木に対する愛情が深い。一人で約30haの山林を維持管理しておられ、自宅近くの山林内には、サカキやシキミを栽培し出荷されている。自分の山の間伐木を伐採・製材し、木製本棚、ラック等を製造し、販売等を行っている。

(イ) 筒井順一郎氏の林業経営で学んだこと

池田 将信

筒井氏の自宅に到着後、挨拶もそこそこに『人には本音と建前がある。しかし、山には建前がないので、まず山を見て欲しい。』と、自宅の裏にある筒井氏が先祖代々受け継いできている山を案内してくれました。

山は、しっかりと間伐が行われており、また、管理が行き届いているため、爽快かつ清々しい気持ちになりました。

山の中では、『自分の息子の生まれた年に植えた木』など、木への思い入れを語ってくれました。

自分が生きてきた歴史と木の歴史を重ね合わせ、皆伐してまた植えるというやり方ではなく、山全体で常に資源がある状態を保つという林業が行われていました。

『これは14年生の木。人間でいえば中学生、親の手からは、離れるが先が見えない。』『これは18年生の木。人間でいえば高校生、自分はこういう生き方をすると、はっきりと意思表示を始める。』、『これは36年生の木。社会に出て立派に貢献する。』と、木の生き方と人間の生き方は同じで、子どもを育てる感覚で木を育て、木の気持ち、意思を話してくれ、筒井氏の木に対する愛情を強く感じました。

筒井氏は育林、伐採、搬出、製材加工を全て一人で行っており、枝打ちした枝や間伐材などを使い、プランターやマガジンラック、鳥の巣箱など木工品のキットの販売、また、学校からの依頼を受け、自分の山を使い、地域の子どもたちに環境学習も行われており、まさに柚師と呼ぶに相応しい人物であると思いました。

今回の研修では、(株)とされいほくのH型架線集材システム、土佐町林業研究会の水源地の木材を使って水需要地に住宅を建築する取組、筒井順一郎氏の個人による育林・伐採・搬出・製材加工、NPO法人土佐の森救援隊の間伐材の搬出を通じての小規模自伐林家の育成、香美森林組合の高性能林業機械を用いた間伐



筒井順一郎さんから林業経営についての説明



と、個人レベルの小規模間伐から高性能林業機械の大規模間伐までを見ることができ、大変有意義な研修でした。

糸島市では、次年度より小規模自伐林家の育成に取り組む予定であるため、今回の研修を活かし、自伐林家普及のための施策を展開していき、森林と山村の再生に取り組みたいです。

吉村 幸一

筒井氏の林業経営の特色は、植林から伐採、製材、更には加工品の製作、また林地の下層植生として換金性のある榲やシキミの栽培等々、これらを全て本人一人で行っていることである。まさに中小規模林家の一つの理想の姿を見た思いであった。とされいほくを始めとした現場主体の研修は非常に良かった。何よりも林業を県の主産業として認識している高知県の林業に対する積極的な施策が感じられた。今回の研修で学んだことは、自家的林業経営、更には森林組合員の団地化施策の推進の参考にしたい。

古賀 裕二

筒井氏の森林は、植栽して40年なのに4回も間伐していることから、立木は、かなり間隔が広く、全て真っ直ぐに太く伸びていました。商品化のためにもう一回間伐するとのことで、これくらい徹底しないと高く売れる用材にならないことを教わりました。筒井氏の山への愛情の大きさに驚きました。



筒井順一郎さんの製材所で説明

私のような素人が、プロ集団に紛れて先進地を視察させていただき、プロの方々に色々基礎的な疑問の現場解説やアドバイスをたくさんいただきました。機器や方式の先進性のすごさはよく分かりませんでした。現場を知ることができた事と、そして良き仲間めぐり会えた事が一番の収穫でした。国内の林業が苦戦している中、どのように経営すべきか考えさせられました。

大野城市には林業従事者がおらず、作業現場は初めて見た次第です。市有林は伐採の時期となっているため、これからどうやって地産地消するか考え、仲間の知恵をお借りしながら実現可能な計画を立てたいと考えます。

④ NPO土佐の森救援隊

(ア) 概要

平成15年4月創設し、8月に法人化。現在、登録会員 61名。

設立後、各地域の森林ボランティア団体に所属する活動家の養成、森林の整備保全活動、グリーンツーリズム活動、その他森林・林業関係のイベントを実施してきた。

今回の視察現場では、材を引きずる方式の「土佐の森方式軽架線」で間伐材を搬出していた。

「C材で晩酌を！」で始まった自伐林家の取り組みが広がり、現在は全国にも広がっている。

(イ) NPO法人 土佐の森救助隊の活動を通して学んだこと

前園 良一

「C材で晩酌を！」で始まった小さな取り組みが、あっという間に広まり、今まで放棄していた自分の山を手入れされる個人林業家が増えたのが、すごいと思った。この取り組みも、全国的に広がっており、山の集約化や高性能機械での搬出だけが、これからの林業が生き残れる手段と思っていたのが、このように高額な投資をしなくても、収入を得られるとは思っていなかったのが、この手法もありかなと思った。

しかし、近くに木質バイオマス工場がないとね・・・。今後、工場が出来れば材の安定供給にもなるし、自伐林業家が増えてくれば、森林もどんどん整備されていいこと尽くしである。

こつこつと、一人で山を手入れしている個人林業家から、大規模な集材システムを駆使して、先輩たちの索道の伝統を守っている第三セクターや高性能機械での集材システムを行っている森林組合、個人の自伐林業家を育成しているNPOなど、いろんなパターンで森林整備されているのが、一つの県内でみられたのがすごいと思った。さすが森林面積全国一の林業王国高知県である。

今後、林内残材などを受け入れてくれる、受け入れ先ができれば、自伐林業家をどんどん増やせるのでしょうか！なかなか難しいですね。今後、国や県の補助金での受け入れ先の誘致等を、本気で考えていかないと！



NPO法人土佐の森救援隊の軽架線による集材

堀 幸代

土佐の森救援隊では、思っていたよりも林業未経験だった方がバリバリと働かれており、驚きました。今まで間伐をして引き出すのは林業のプロの方の仕事とっていました。しかし、未経験でも様々な知識や技術、経験を積むことにより、林業従事者として成長できるのだと感心しました。引き出し方法もプロの方とは違い、土佐の森方式という独自のものを実際に見て、とても興味深く、よい学びになりました。

高知県で行われている取り組みを見ると、現在の林業が置かれている厳しい状況はあっても、それぞれの会社や個人、NPOの皆様が、独自のやり方で集材して利益を上げ、喜びを感じておられたことが印象的でした。規模にかかわらず、今回視察させていただいた皆様は、これからも様々な方法を生み出して、また進化されていくと感じました。

この研修で改めて、間伐材の利用の必要性を感じました。大量に間伐材を引き出し利用することはできませんが、林地に放置されている間伐材の一部を、少しでも引き出して市内外の皆様に、工作などを通して使っていただけたらと思っています。また、身近な地元材を紹介していける木工を考えていきたいと思っています。

様々な林業先進地にご案内いただきありがとうございました。高知県の方々に直接お話が聞ける機会が沢山あり、とても勉強になりました。

島津 和浩

高知県仁淀川町流域エネルギー自給システムの導入時に、全戸配布で実施された事前アンケートでは、土佐の森救援隊が思われていた以上に、地元の所有者が多く、材搬出に対する意識が高く、また、間伐ボランティア参加も高いという結果が出ており、大変興味深い結果となっていました。

初年度の小規模林産の林地残材搬出状況を見ると、搬出者累計数及び月別搬出量が、共に右肩上がりに増加しており、事前アンケートの結果が証明され、収集運搬の当初計画では、大規模：中規模：小規模の割合が6：3：1であったものが、6：2：2となり、4：2：4、1：1：8と、だんだん小規模の割合が増加しており、小規模林家の凄さや有効性を強く感じました。

しかし、最初から全てが上手くいったわけではなく、成功の背景には“C材で晩酌を！事業”というバイオマス事業の買取価格3,000円に、土佐の森救援隊独自の環境支払いとして、3,000円を上乗せするという仕掛けがあったため、非常に大きな成果を上げることができたのではないかと思います。そのような仕掛けの必要性を感じました。



自伐林家の増加は、仁淀川流域に留まらず全国各地で増加しているため、自伐林家の有効性が示されたのではないかと思います。この自伐林家の潜在能力の高さに驚嘆し、大変強い魅力を感じました。

今回の研修は、様々な手法の収集運搬システムを見ることができ、有意義な研修でした。どの収集運搬システムも優れていましたが、その土地の山の形状によって、どの収集運搬システムが最も効果的なのかが決まってくるため、その土地の山の形状をよく分析し、その地に適した収集運搬システムを選定することの重要性を強く感じました。

本市（糸島市）では、間伐を切り捨てで行っているが、林業再生のため、搬出していきたくと考えています。それに併せて、平成15年より取り組まれている土佐の森救援隊の仕組みは、参考にするとところが多くあるため、土佐の森方式により、副業型自伐林家の普及を図っていきたくと考えています。

能美 俊夫

「地域に根ざしたシンプルな自伐林家」をNPOの活動として、広める方向は、すばらしいと思う。自伐した材を地域で出荷する場がある「森の工場」の制度等、「自伐林家」を後押しする体制も重要な要素となっている。ただ、「軽トラ事故」等々安全面でのとりくみの強化が必要そうだ。

とても良い研修が出来たと思う。キーワードは「自伐林家」、フォレスト・フレンズが今回で終わる事無く、継続されることを祈りたい。

研修で学んだことを活かして、「自伐林家」をめざします。安全面にも注意しながら！

⑤ 香美森林組合（香美市香北町）

(ア) 概要

- ・ 組合員数 3,508名、職員 12名、内5名がプランナー。
- ・ 豊かな森づくり(森林の整備)、道づくり(作業道の開設)を推進しながら、人づくり(職員・森林技術員)による、豊かで活力ある林業を目指している。
- ・ 施業団地による効率的な間伐を実践している。
- ・ 視察した現場では、ドイツ製のトラクタとオーストリア製のタワーヤーダ等の高性能林業機械による列状間伐を実施していた。
- ・ 森林・林業再生プラン実践事業を実施している。

これは、地域実践計画の作成、研修の実施、実践事業の実施、作業システムの検証に取り組んでいる。

(イ) 香美森林組合の林産業を通して学んだこと

原口 武



香美森林組合のタワーヤーダシステムによる集材

地形に合わせた高性能林業機械の作業システムが、良く考えられていた。人材育成にも力を入れていて、林業技術者の確保が大切だと実感しました。

H型架線集材を初めて見まして、すごいと思いました。タワーヤーダによる架線集材を行うにあたって、海外で研修までして勉強していることは、知りませんでした。又、自伐林家の方が多くいることに驚きました。学んだ事を仕事に活かして、精進して行きたいと思えます。

研修で学んだことを活かして、豊かな森林づくりにも力を入れたいです。又、木材でいろいろな製品を作成してみたいです。



森下 徳是

林業機械を有効に使い搬出していた所は、学ぶことが多かった。

研修の全体を通して、とても参考になりました。特に、うきは市内では、架線は実施していないので、機械を使っただけの架線作業は勉強になりました。

今後は架線作業も大切になってくるので、勉強したい。

尾家 正士

私は、福岡県フォレスト・スレンズ事業高知県視察研修で、3日目の11月9日に香美森林組合を尋ねました。林野面積は、約31,075ha（17,000ha）、組合員数3,500人（3,200人）、職員は、技術員合わせて58名（41名）です。（ ）内数字は豊築森林組合の数字です。香美森林組合では、1,000m級の山々での植付け、下刈、除伐、間伐、伐採、運搬などの作業、高性能機械の使用については、高度な知識や技術が必要と思われた。

また、訓練もされている様子にも思いました。私にはチームワークも良かったと思います。高性能機械の使用索道（H型架線）、クローラ搬出は、木材価格の低迷している現在、地域や地形によって作業を工夫されていることに、とても関心があります。

施業モデル団地として、間伐計画を立て、団地化することによって、集落での話し合いを行い、作業のとりこぼしをなくす。5年後10年後の木材自給率50%に合わせ、団地化を大きくしている。森林所得を得ることを主体にしつつ、自然を守りながら林業振興を進めて行く様子が伺えます。

2 平成25年度林業改良普及協会会員の募集

福岡県林業改良普及協会では、「新規会員」を募集しています。会員の方には、「林業新知識」を毎月お届けし、森林や林業に関するタイムリーな情報を提供しています。

(1) 年会費 特別会員12,000円、普通会員2,000円

(2) 主な特典（*は特別会員のみ）

①森林・林業情報誌「林業新知識」を毎月届けます。

②全国林業改良普及協会が発行する図書が割引価格で購入できます。

*③「林業新知識」姉妹紙「現代林業」（年4,500円相当）を毎月届けます。

*④全国林業改良普及協会が毎年発行する「普及双書」（3冊組3,000円相当）を配布します。

(3) 申し込み・問い合わせ先

福岡県林業改良普及協会 電話：0942-45-7868 FAX：0942-45-7901

編集後記

フォレストフレンズの沢山の感想を編集していると、研修の感動が良く伝わってきて、企画したもののとしても大変うれしく思いました。このような良い研修ができましたのも今回の研修でご指導いただいた高知県の関係各位のおかげであると感謝しております。ありがとうございました。

なお、予算的な制約があるため、平成25年度は一旦県外視察研修を取りやめ、県内での研修を計画する予定です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。（今井）

- 編集発行 福岡県林業改良普及協会（福岡県森林林業技術センター内）
〒839-0827 福岡県久留米市山本町豊田1438-2 （電話）0942-45-7868
- 発行日 平成25年9月